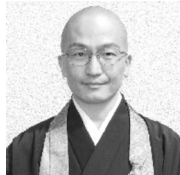


諦崇寺報

発行 諦崇寺
編集 藤井崇文
〒631-0065
奈良市鳥見町
2丁目28-10
0742(37)2569
taisouji.jp



唾を飛ばすな

禅寺には三黙場と呼ばれる、喋ってはいけない場所があります。僧堂(坐禅・食事・睡眠)、東司(便所)、浴司(風呂)です。食事は僧堂ですから、黙って行じます。黙って食べると料理の味がよく分かります。丁寧に生きる第一歩、丁寧に食べます。お喋りしながら食べるのも楽しいですが、料理の味はよっぽど不味いときじやないと分らなくなりません。

新型コロナウイルス、閉じた空間で大勢が声をあげたり、息を弾ませたり、会話をしながらの食事、これらは感染の可能性を増大させると判断しました。

ソーシャル・ディスタンス供養

2月中旬からお檀家さま参りを控えましたが4月中旬、「このままでは人智が廢る」と思い立って、玄関先やお庭から縁側越しにでもお仏壇を拜もうと始めました。読経の際に窒息しないよう透明マスク、折り畳みのイス、不格好かなと思っただけは最初だけでした。



5月に入ると日差しが強まってきたので何かないかと探したら、お寺の網代笠が目に入りました。昔の人は必要な物を残してくれていました。模索したら昔ながらの托鉢スタイルに戻ったのが面白いです。けれど、再びこのような形にならないよう願っています。

今までの生活を変化させるのは、難しいように思えます。永平寺での僧堂生活も初めの頃は、規則や言葉遣いといった生活様式が全く違つて窮屈に感じました。けれど慣れてしまえば何のことはなくて、それまでのコダワリは何だったのだろうと気付きました。

曹洞宗の開祖、道元禪師は「食べながら唾を飛ばすな」と記されました。これまでの私は何故そんなことをわざわざ書き残されたのだろう?と思つていました。それが今になってようやく、その大切な意味は、時間を経ても届く大きな親心だったと分かりました。黙って丁寧に食べましょう。

怖さの原因

恐怖の原因はウイルスにあるのでしょうか?それとも行動変容を嫌がる社会や自分たちにあるのでしょうか?

感染を防ぐ点において、私たちはリスクを下げる方法を既に理解しており、そのための知恵や手段も持ち合わせています。私たちは病気を恐れているのか、それとも行動様式の変更を恐れているのか、はっきり認識せねばなりません。

病気は変えられませんが、行動様式は変えられます。今まで通りは通用せず、行動変容をして社会活動の継続を目指すべきです。

世界のロックダウンや日本の緊急事態宣言は病気のせいではなく、私たちが行動変容を忌避するが故であったと思います。感染を防ぐ手立ては知っているので、薬やワクチンに希望を持ちつつも、今すぐできる、分かっている後はやるだけ、を実行するべきです。

もう一つ怖さの原因、私は死を遠ざけ過ぎた事も一因だと思つています。「老いても若々しく」は理想ですが、「いつまでも旺盛に

消費してください」の広告が溢れかえり、強調され過ぎています。死を見ない・見なくて済む社会は理想の実現でもありますが、現実逃避でもあります。

私たちはどこから出発するか: ヒトの致死率は100%という紛れもない事実、科学を腹の底から理解せねばなりません。それから生物の使命として、知恵を振り絞って死なないう命を大切にすること。生物学的な命は去っていきませんが、次世代に伝えていく命は永遠です。永遠の命を感じることができて、携えることができたなら、私たちは怖さから離れて強くなります。

多様性

人類に多様性があつたからこそ、ウイルスに襲われても滅亡せず存在します。アメリカで黒人差別問題が再燃しましたが、人種差別は人類の存続を否定することになってしまいます。

「命」を考へるとき、私たちは個体の命ばかり気を取られているのかも知れません。自分の命は定められた期間、お預かりしているだけです。人間という種族の命が存続していくストーリーの一篇。自分の命を考へるとき、社会の命に考へが至るのはごくごく自然、当然なことです。

私たちそれぞれ個体の命ですら、37兆2千億ある細胞の命が集まつての存在です。それを好き勝手な解釈で、自分は一つの命だと思ひ込んでいくだけです。

そして社会の多様性:誰かにとつて「いま必要」なことは、他の人にとって「不要不急」な場合がほとんどです。新型コロナにおいても危機感の差が分断のもとになり始めています。お互いを尊重した意識と形の中で、これからの社会、ニューノーマルも定まってゆく、多様性を大切にせねばなりません。

宗教は非科学か

科学でないことを宗教だと仰る方がありますが、お釈迦さまの教えには科学がたくさんあります。

お釈迦さまは2千5百年前に「生老病死」、「つまり人間は致死率100%だと喝破されました。その科学を腹の底からの理解に抵抗するのが私たちで、言い換えてみれば、人間こそが宗教です。人間ですから科学的なことも非科学的なこともありませう。そんな私たち、人間の悩みを解き明かそうとした先人の智慧が仏教です。

仏さまの教えたたとえ非科学に見えることも文脈でとらえれば、科学うんぬんの尺度ではなくて、比喩や希望や夢の現れであつたりします。例えば、永遠の命は生命科学でなくて、守り伝えていく種のストーリーとしての「命」です。だから非科学を簡単に「宗教」と言われるのは実に悲しいです。本音を言うと私自身を棚上げして「思慮が浅いな」と感じます。そう仰る方が100%科学的に生きようから。また、自分が理解できないからといって簡単に「宗教」と仰る方は論外です。

科学でないなら単に「非科学」と表現するのが科学的態度であり、知りもしない調べもしない「宗教」という言葉を持ち出すこと自体が非科学です。「科学」の反対語が「宗教」ではありません。

あとがき

東大寺の鹿たち、みんな痩せてました。かわいそうに思いました



が、もしかしてこれが本来かも?と思ひました。今回、色々と見直すすきかけになりました。崇文拝